

演題名	訪問車の事故にて生じる修理代の削減		
施設名	ひまわり在宅サポートグループ	(ふりがな) 発表者(職種)	(ささき ひさし) 佐々木 寿 (作業療法士)
(ふりがな) チーム名	(しゅうりだいにもほどがある) 修理代にもほどがある！		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	訪問看護・在宅ケア(訪問介護)の業務において訪問車(社有車:スズキ・アルト)が63台あり、使用する職員が71名いる。 車両事故を防止することで修理代を抑え、経費削減に繋げる。		
改善の指標と その目標値	(指 標)訪問看護・在宅ケア(訪問介護)の訪問車(アルト)63台の事故で生じる修理代 (目標値)1ヶ月あたり7万円以下にする 2022・2023年の2年間で訪問看護・在宅ケアの訪問車の事故で生じた1ヶ月の修理代の平均は15万5444円 活動により50%以上抑えることを目標に設定		
実施した対策	①車両事故防止に関する動画を作成して職員が視聴する ②駐車の実技チェックを行い、現状の運転技術の確認を行う ③訪問車運転日報に点検項目を追加して安全運転への心がけや車両の異常・故障が事故要因になる事への意識付けを図る		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前)2022年:事故件数15件(1.25件/月) 修理代総額1,380,141円(約11万5012円/月) 2023年:事故件数11件(0.92件/月) 修理代総額2,350,507円(約19万5876円/月) (実施後)2024年(1～5月):事故件数4件(0.80件/月) 修理代総額0円(0円/月)		
歯止めと 標準化	■乗車前の点検実施シートを全職員が毎朝車両で安全運転をする為に項目に沿って確認してゆく ■安全運転動画を全職員が空いている時間にiPad・PCで安全運転をする為に動画視聴する ■交通安全の呼びかけをTQMメンバーが会議や朝礼の場で事務所・LINEWORKS上で事故発生防止の意識向上の為呼びかける		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ②複数の職場が連携した活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動 ④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1 酒本 正彦 介護支援専門員
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ②支援部門 ③管理部門		2 佐竹 啓 理学療法士
活動期間	令和5年12月～ 令和6年6月		3 佐々木 寿 作業療法士
リーダー名 (職種)	酒本 正彦(介護支援専門員)		4 阿部 まなみ 看護師
活動回数	8 回		5 渡部 峯子 看護師
			6 相澤 久美子 看護師
			7 加藤 優弥 看護師
			8 佐藤 俊之 介護福祉士
			9 石井 和也 作業療法士
			10 高橋 ひろみ 理学療法士
			11 佐々木 恵太 理学療法士
			12 佐藤 敦 総務
			13 櫻井 厚子 総務
			14 阿佐野 佳奈 医事

【テーマ選定】

テーマの選定

評価点 ○5点△3点×1点

	施設方針	重要度	緊急性	可能性	効果期待	とりやすさ	データの合計点
事故の修理代の削減	○	○	○	○	△	○	28
印刷物の削減	○	×	×	△	△	○	16
物品の削減	△	×	△	○	△	○	19
残業代の削減	○	△	×	○	○	○	23
訪問行程直しによる移動経費削減	×	△	×	△	△	△	12

テーマの選定と背景

2023年度大崎ひまわりのTQM活動にて訪問車の事故件数・修理代を前年度より抑えることに成功
2024年はその活動をひまわり全体で共有してさらなる経費削減に取り組むことにした

しかしながら、ひまわり在宅サポートグループでは11の事業所・形態があり訪問看護・在宅ケア(訪問介護)を中心に訪問車(軽自動車)を、デイサービス(通所介護)・ナースインホーム(多機能)では送迎車(普通車)を運行しており、車種・用途・乗員の動きなどに異なるところがある

今回の活動では訪問看護・在宅ケアの訪問業務において
訪問車(社有車)を使用する職員1名
訪問車スズキ・アルト63台
対象に活動することにした

【現状把握】

現状把握 訪問車(スズキ・アルト)について

主な仕様・装備	装備・機能なし
FF ※大崎・登米・仙台の一部4WD	バックカメラ・モニター
ミッション:CVT(MTミッションがベース)	衝突センサー
カーナビ	ドライブレコーダー
冬季はスタッドレスタイヤ	後退時ブレーキサポート
ABS機能	車線逸脱警告機能※一部搭載
サイドミラー調整(手動・内外側調整可能) ※上下方向調整不可	前・後誤発進抑制機能

自家用車では当たり前となっている
安全運転支援機能が付いていない



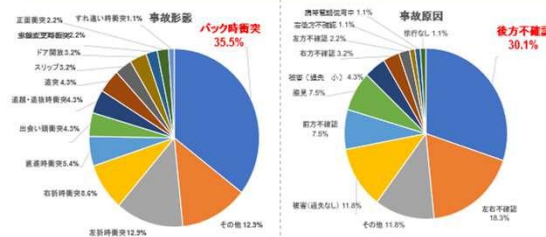
現状把握 年間事故件数・修理代総額



現状把握 修理代(1ヶ月あたり・1件あたり)



現状把握



【目標設定】

目標設定

いつまでに	2024年5月31日までに
何を	訪問車(アルト)の事故で生じる修理代を
どうする	1ヶ月あたり7万円以下にする

管理特性	訪問看護・在宅ケアの訪問車(アルト)63台の 事故で生じる修理代
目標根拠	2022・2023年の2年間で訪問看護・在宅ケアの訪陣の 事故で生じた1ヶ月の修理代の平均は15万5444円 活動により50%以上抑えること目標に設定。

【要因解析】



重要要因

No.	重要要因
①	訪問先での駐車への不安
②	事故事例の共有なし
③	運転前の車両の安全確認不足
④	安全装備が少ない

【要因解析】

重要要因の検証

No.	重要要因	検証方法	結果	採否
①	訪問先での駐車への不安	アンケートで実態調査	駐車シチュエーションが違う	採用
②	事故事例の共有なし	事故原因の分析	バック操作での事故が多かった	採用
③	運転前の車両の安全確認不足	アンケートで実態調査	運転前確認・調整が不十分	採用
④	安全装備が少ない	バックモニター等	費用がかかる	不採用

【対策の実施】

対策の実施 ① 車両事故防止に関する動画視聴

- ・訪問先ごとに駐車シチュエーションに対応しなければならない
- ・安全装備の導入が難しく、低予算で導入可能な対策として実施
- ・ひまわり全体における車両事故の統計分析や、職員に対する運転意識についてのアンケートを用いて、車両事故発生防止に関する動画を作成。
- ・バック駐車や縦列駐車など、職員が特に苦手と感じていることについては、より詳細な講習動画を添付。ひまわりの全職員に動画の視聴をお願いし、運転技術と事故発生防止に対する意識向上を図った。

対策の実施 ② 駐車実技のチェックについて

- ・動画視聴後に事務所駐車場において左右バック駐車、縦列駐車の実技を行い現状の運転技術の確認を行った。
- ・社用車、自車におけるボンネットの開け方、閉め方とウインドウォッシャー液の補充方法についても確認を行った。
- ・その後実践してみても不安に感じたことや、普段気をつけていること等のヒアリングを行った。



【対策の立案】

対策の立案

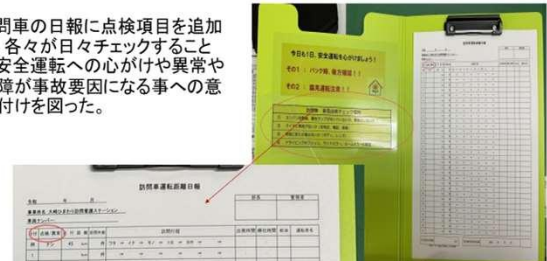
重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	重要性	実現性	効果	採否
①訪問先での駐車への不安	駐車シチュエーションの把握	苦手意識の軽減	動画を作成	◎	◎	◎	採
②事故事例の共有なし	事故の統計調査	事故事例の共有	実技チェック	◎	○	◎	採
③運転前の車両の安全確認不足	アンケートで実態調査	車両周辺状況の確認	チェックシート作成	◎	○	○	採

対策の実施 ① 車両事故防止に関する動画視聴



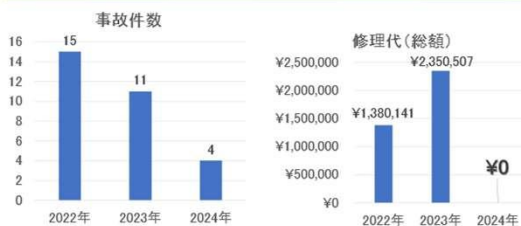
対策の実施 ③ 日報に点検項目を追加

訪問車の日報に点検項目を追加し、各々が日々チェックすることで安全運転への心がけや異常や故障が事故要因になる事への意識付けを図った。



【効果の確認】

効果の確認【有形効果】年間事故件数・修理代総額



効果の確認【有形効果】修理代(1ヶ月あたり・1件あたり)



効果の確認【無形効果】

アンケート結果より

- ・移動時は余裕を持って行動し、遅れそうでも焦らず安全第一で運転するよう心がけるなど **意識が変わった**
- ・自分の運転技術の **苦手な部分の再認識**ができた
- ・縦列駐車などの運転技術に関する **不安が軽減**
- ・一時停止や信号で止まった時にこちらが優先でも右左の **確認を必ず**するようになった

効果の確認【波及効果】

アンケート結果より

- ・普段・プライベートの運転でも **注意度が増す**ようになった
- ・自車で乗車前に **点検項目を確認**するようになった
- ・危険予測運転を意識するようになった

【標準管と管理の定着】

標準化と管理の定着

	実施項目 (WHAT)	誰が (WHO)	いつ (WHEN)	どこで (WHERE)	なぜ (WHY)	どのように (HOW)
標準化	乗車前の 点検実施シートを	全職員が	毎朝	車両で	安全運転を する為に	項目に沿って 確認してゆく
教育	安全運転動画を	全職員が	空いている 時間に	iPad・PCで	安全運転を する為に	動画視聴
教育	交通安全の 呼びかけを	TQMメンバーが	会議や 朝礼の場で	事務所・ LINEWORKS 上で	事故発生防止の意 識向上の為	呼びかける
教育	実技チェックを	TQMメンバーが	空いている 時間に	事務所駐車場で	運転技術向上の為	チェックシートを 用いて
管理	チェックシートを	TQMメンバーが	空いている 時間に	事務所で	運転技術向上の為	確認し 発信する

【今後の反省と課題】

今後の反省と課題



手順	良かった点	課題
テーマ選定	法人で経費削減の取り組み継続の 方針が決定したため	ひまわり全体で考えると規模が大き く、全体波及に時間を要している
現状把握	アンケート機能を駆使して効率的に 現状把握できた	車種や自車使用等それぞれで環境 が異なる部分があった
目標設定・ 要因解析	経費削減を具体的に設定できた	事故の規模・状況により修理代の差 が大きい
対策の 立案と実施	事故防止に関する周知が徹底でき た	安全装備の充実化(ミラー固定式や バックモニター)
効果の確認	現状目標達成！！	継続して対策実施
標準化と 管理の定着	継続してマニュアル化と浸透を図っ ていく	継続して対策実施